

グリーン・ピックアップス

北海道立林業試験場

33

濃紅色のチシマザクラ新品種 ～農林水産省に品種登録出願～

チシマザクラは、ミネザクラの変種(花柄や葉柄に毛が多い型)で、日本で最も寒いところに自生するサクラです。一般的にチシマザクラは、白から淡紅色の花をつけます(写真-1)。しかし、今回林業試験場では、“濃紅色の花をつけるチシマザクラ”の新品種を開発し(写真-3)、農林水産省に品種登録の出願を行いました。この新品種は、戦前に国後島から根室市に移され、実生増殖し育てられたチシマザクラの中から選抜したもので(写真-2)、組織培養によって増殖し、11年の歳月を経て、その性質の安定性を確認した後、今年1月、品種登録出願を行いました。チシマザクラが北方領土返還のシンボルの花に選ばれたことを受けて、品種名は、「北方領土の国後島に昇る朝陽のように紅い花をつける」というイメージを表す「国後陽紅(くなしりようこう)」としました。すでに、道内の緑化樹生産業者等と苗木の生産販売に関する許諾契約を結び、新品種の普及に努めております。新品種「国後陽紅」の苗木が一般に流通するまでには、もうしばらくかかるとは思いますが、公園や道路の緑化樹、一般の園芸店の店先に並び日を楽しみに待っていただきたいと思っております。

(生産技術科)



写真-1 一般的なチシマザクラの花



写真-2 根室市にある新品種の元樹



写真-3 濃紅色の花をつけるチシマザクラの新品種「国後陽紅」